



ブラジル三菱東京UFJ銀行 DAILY MARKET REPORT

UFJ

1. Market Rate

			5月14日	5月15日	5月16日	5月17日	5月18日	Net Chg
Forex	USD/REAL	Spot	1,9870	2,0000	2,0010	1,9990	2,0200	+0,0210
	USD/YEN	Spot	79,86	80,19	80,38	79,33	79,00	-0,33
	EURO/USD	Spot	1,2830	1,2732	1,2719	1,2694	1,2779	+0,0085
	REAL/YEN	Spot	40,19	40,09	40,17	39,68	39,11	-0,58
Swap	Dollar Clean	6MTH(p.a.)	1,75	1,80	1,89	1,76	1,97	+0,21
		1Year(p.a.)	2,09	2,14	2,21	2,11	2,26	+0,15
	Real Interest	6MTH(p.a.)	7,96	7,90	7,84	7,85	7,81	-0,04
		1Year(p.a.)	7,94	7,88	7,80	7,81	7,74	-0,07
Stock	Bovespa		57.539,61	56.237,97	55.887,57	54.038,20	54.513,16	+474,96
Bond	EMBI+(bp)		205,00	214,00	215,00	226,00	226,00	u.c,
	Global 40		132,100	132,250	131,800	131,800	132,000	+0,2000

* これらはインターハンク市場等におけるブラジル市場終了時のインデイケーションです。実際のレート提示は弊行担当アカウント・オフィcerまでお問い合わせ下さい。

直近5営業日U\$/R\$推移



[来週の予想相場レンジ]

1.97~2.10

[来週の為替市場注目点]

今週も引き続きギリシャの政局不安など欧州発のネガティブ材料から世界的にリスク資産が売られる中、レアルは政府要人のレアル安容認発言とも相俟って心理的節目であったU\$1=R\$2.0000を割り込み下落した。金曜には政府・中銀の介入スタンスを試す格好で投機的なドル買いから一時3年振りの水準となる2.0570まで下値を拡大した。同水準で中銀による介入が入り反発したが、市場に急速なレアル安の進行は認めないと政府のスタンスを示す格好となつた。来週にかけても基本的には欧州の政局・財政問題の進展を見極めながらの相場展開が予想されるが、ブラジル国内では中銀の介入スタンスに焦点が当たることが予想され、今後どの水準で再び市場に介入してくるかを探るような動きが目立つ展開が予想される。

- ・ 伯インフレ指数:IGP-M(21日)、IPCA-15(22日)、IPC-S(23日)
伯週間貿易収支(21日)、月間経常収支、失業率、対内直接投資(24日)
伯FIPE週間消費者物価指数、FGV消費者信頼感(25日)
- ・ 米中古住宅販売(22日)、新築住宅販売(23日)、米耐久財受注(24日)
- ・ 米ミシガン大消費者信頼感指数(25日)
- ・ 独Ifo景況指数(24日)

2. 市況、トピックス (As of mai-18)

【ギリシャやスペインなどの混沌を受けたリスク資産売りからレアルも心理的節目の2.0000を下抜け続落する展開】

今週の為替相場はU\$1=R\$1.9770で寄り付いた。13日に実施されたドイツ州議会選挙で国政与党が歴史的な敗北を喫するなど欧州の政局不安を背景に週初からユーロが軟調推移となるとレアルも売り優勢で寄り付いた。心理的節目であるU\$1=R\$2.0000に迫る中、マンテガ財務相の「ドル高はブラジルの競争力を高める、政府は為替の水準について心配していない」とのレアル安容認発言が伝わると約3年振りに2.0000を下抜け下落した。その後もギリシャの新政権樹立に向けた政党間協議が不調に終わり6月に再選挙が行われることが決定されるなど欧州の政局不安は収まらずレアルはじりじりと安値を更新しながら続落した。週央にかけてもルセフ伯大統領の「レアルは極度に過大評価されている」とのコメントや日増しに強まるギリシャのユーロ圏離脱の可能性などが意識され、レアルはリスク資産の代表である株式市場の下落を伴って続落した。その後もECBが一部ギリシャ市中銀への流動性供給を一時的に休止、スペインの国債入札での調達コストの大幅上昇、大手格付け機関によるギリシャの信用格付け及びスペインの銀行16行の格下げなど欧州発のネガティブ材料には枚挙に遑がなく、レアルは瞬間に2.01台まで下落し、その後も2.00台で上値の重い展開が続いた。

本日の為替相場はU\$1=R\$1.9980でオープン。寄付き直後から海外勢と思しきレアル買いが持ち込まれると早々に本日のレアル高値となるU\$1=R\$1.9960を付けた。しかしレアル買いが一巡すると、国内勢からの大口のドル買いが持ち込まれ一気に反転し、2.01台まで下落したその後もマーケット開始前に発表された3月の伯経済活動指数が市場予想を大幅に下回ったこともブラジル経済に対する市場心理に水を差す形となり、出口の見えない欧州債務問題と相俟ってレアルは午後にかけてもじりじりと売られる展開が続いた。ドルショートポジションの増加対しIOFを掛ける政府規制の下ドルの売り手が限られる中、マーケットでは中銀の（ドル売り）介入姿勢を試しに行く動きが強まり“投機的”なドル買いから薄商いの中、2009年5月19日以来の水準となるU\$1=R\$2.0570まで安値を更新した。しかし、同水準で中銀によるSWAP形式のオークションが通知されると市場ではドル売りが殺到し、一気に2.02台前半まで急反発した。その後やや高下する場面も見られたが、引けにかけて2.0200を中心としたレンジに落ち着き、結局U\$1=R\$2.0200で越週した。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧説を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したものですが、その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。なお、当資料の無断複製、複写、転送はご遠慮ください。当方の都合で、本レポートの全部または一部を予告なしに変更することがありますので、予めご了承ください。